

立体うさぎの折り方

うさぎの折り紙は、いろいろあるようですが、ここで紹介するのは、『立体的なうさぎ』です。

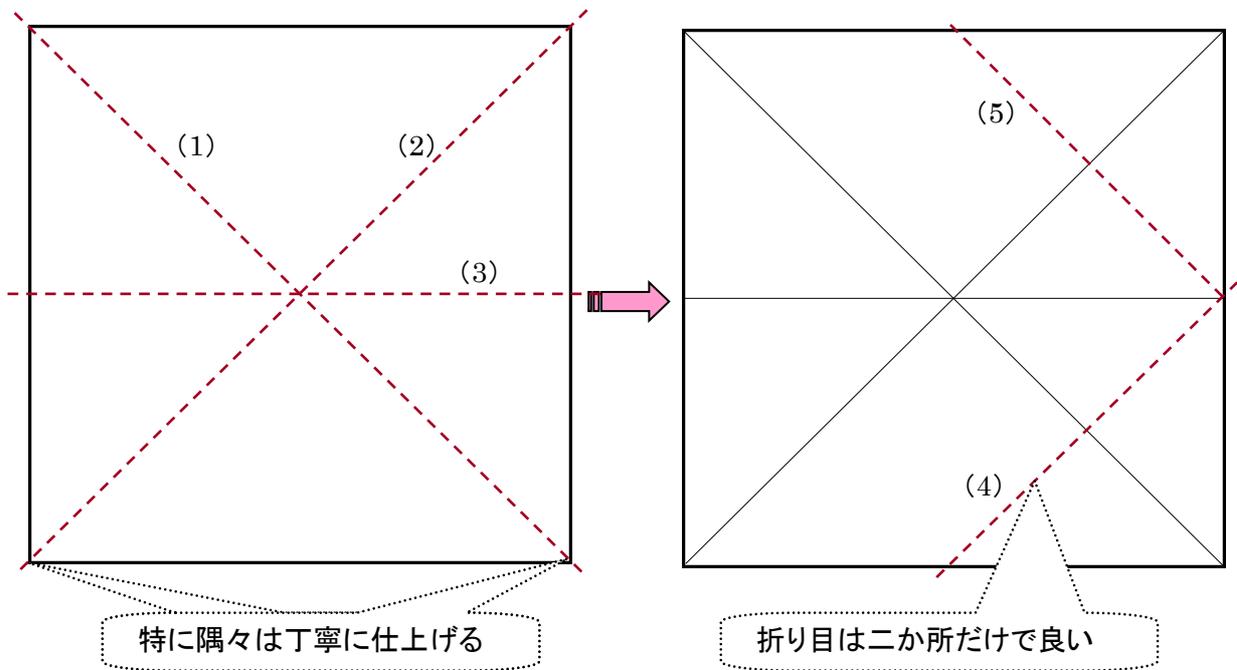
面白いのは、折り方を少し変えると、右図のように偉そうなうさぎやごめんなさいと謝るうさぎなど、工夫すればさまざまな表現のうさぎが作れます。

なにはともあれ、まず基本の折り方をマスターしてそれから、変化をつけてみてください。

大事なことは、丁寧に折ることです。最初の少しのずれがあとで大きな誤差を生じたり、時には、折りにくくなることがあるからです。



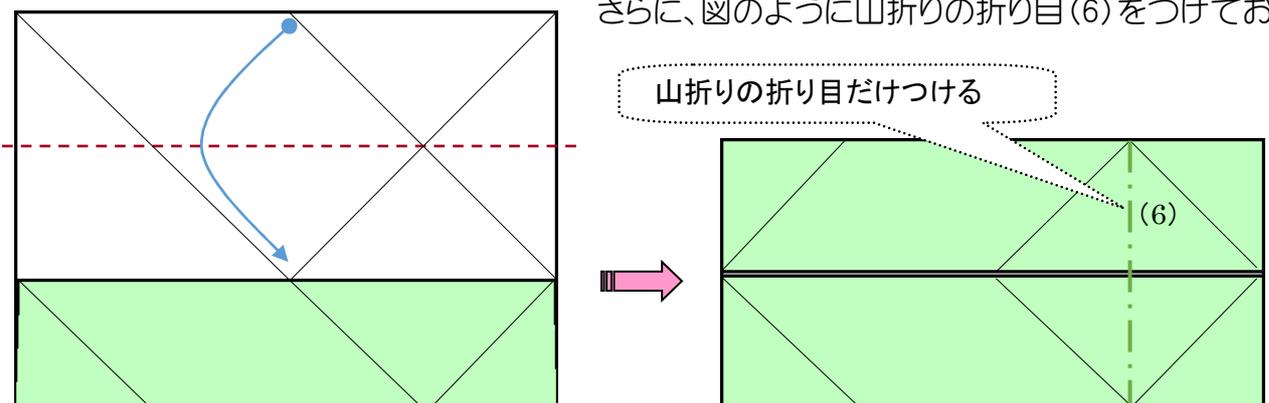
- ① 折り紙を準備し、色面を「裏」にして、斜め(1)(2)、横(3)の折り目を谷折りでつける。(折り目の交点、折り紙の中心に鉛筆で印を入れておくと、いろいろと便利です。)



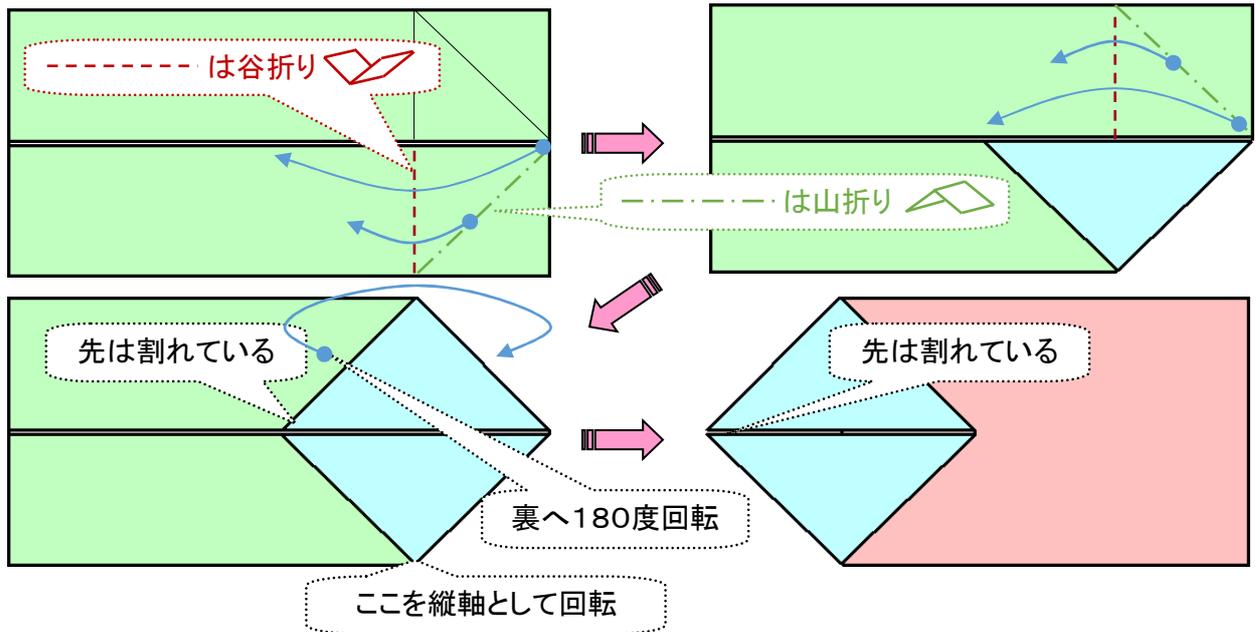
- ② 次いで、となり合う二か所だけ図のように斜めの谷折りの折り目(4)(5)をつける。

- ③ 図のように横半分に谷折りで折る。(両側ともに折る)

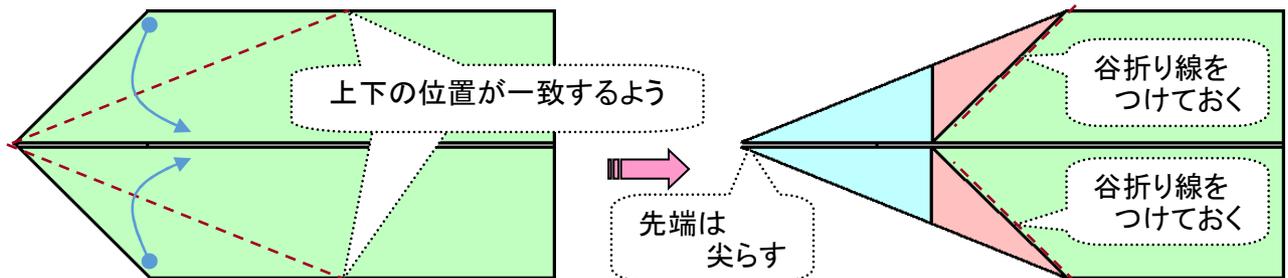
さらに、図のように山折りの折り目(6)をつけておく。



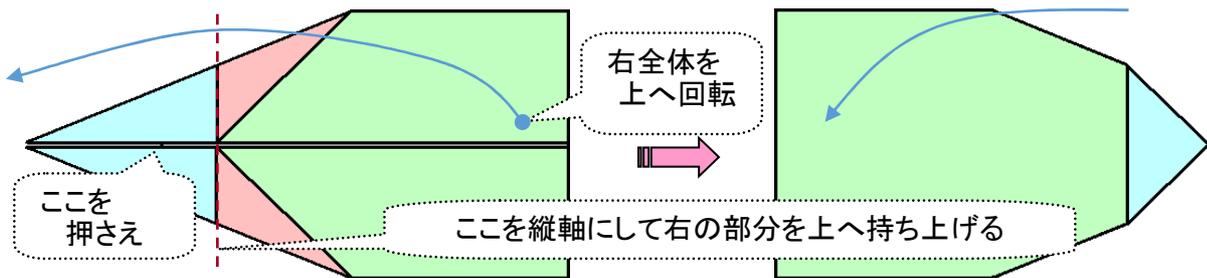
- ④ 右側の山折りになっている折り目(6)を谷折りにして、三角形を出すように広げる。(両方ともに) 次いで、手前にできた正方形をそのままとし、長方形の部分を裏に回す。(図では右側に移動する)



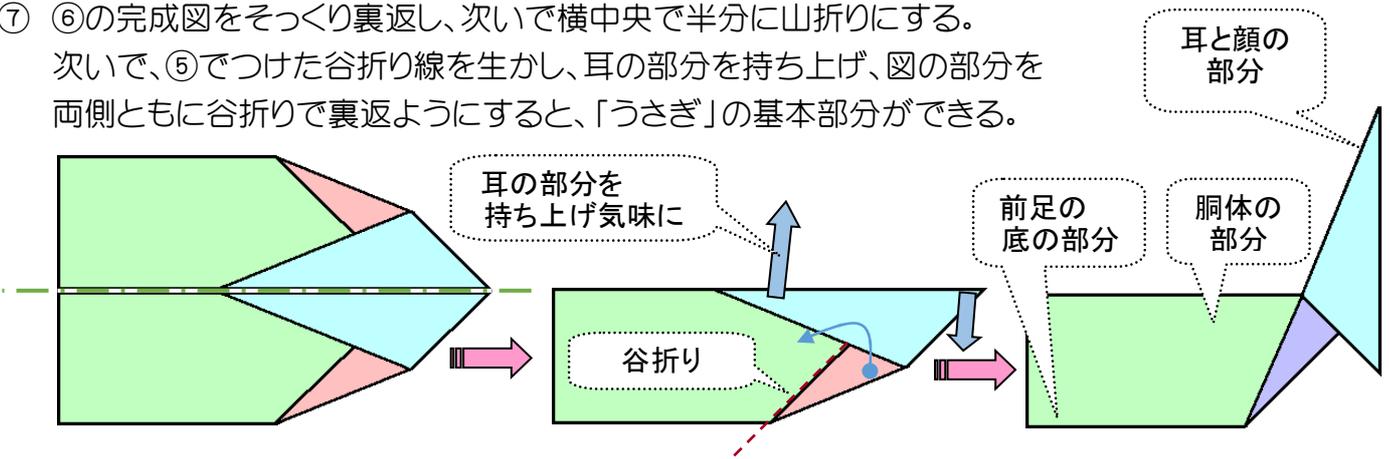
- ⑤ ④の完成図をそっくり裏返し、図の通り二か所を折るが、折りの最後が一致するように折る。 次いで図の通り、⑦で必要となる谷折りの折り目を忘れずつけておく。(2か所)



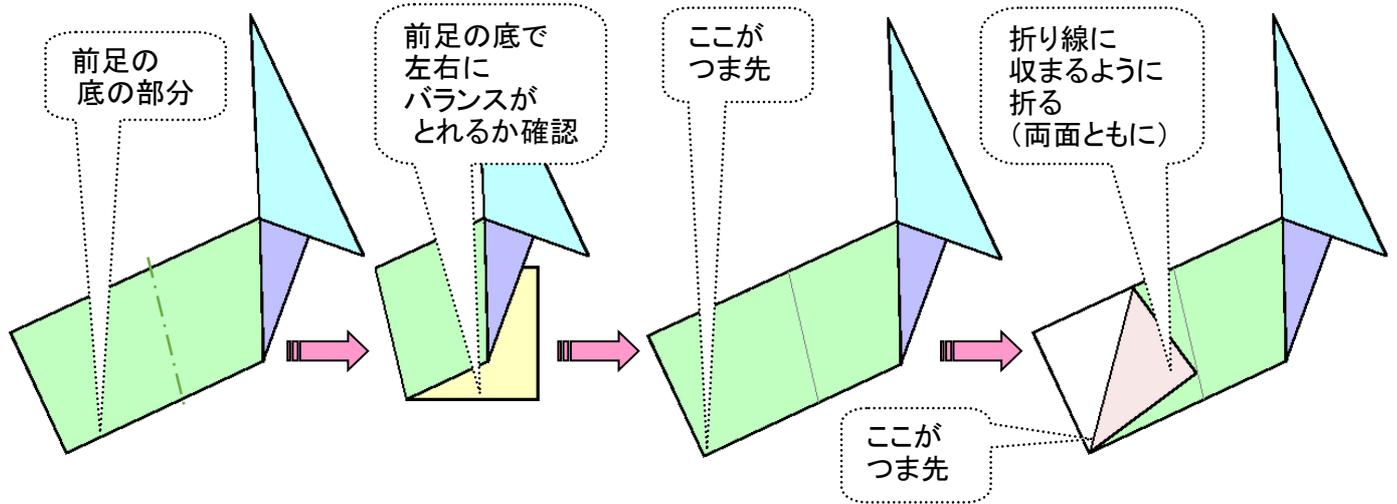
- ⑥ ⑤の先端部分を押さえ、右の部分を手前の方から左へ180度回転させる。



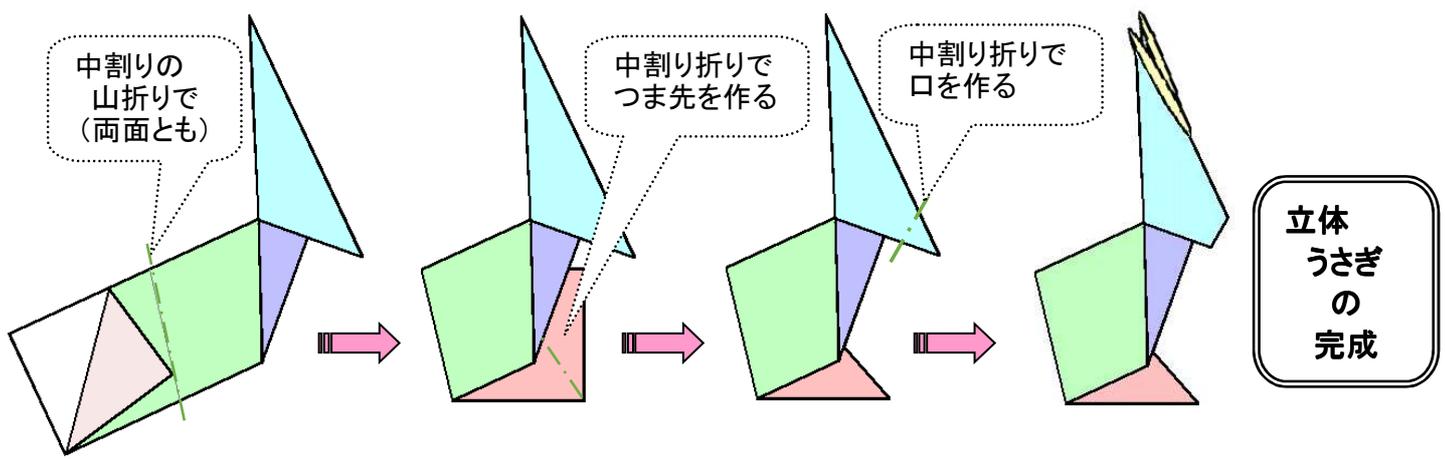
- ⑦ ⑥の完成図をそっくり裏返し、次いで横中央で半分に山折りにする。 次いで、⑤でつけた谷折り線を生かし、耳の部分を持ち上げ、図の部分を 両側ともに谷折りで裏返ようにすると、「うさぎ」の基本部分ができる。



- ⑧ 図に示す程度の角度になるように体を持ち上げ、前足が顔の下あたりに来るように山折りにする。この足の位置でバランスが良いか(左右に転ばないか)確認する。(ダメなら折り目を変える)
- ⑨ 再びもどし、足の外側の面のつま先が尖るように、また折り線に収まる位置で折る。(両面ともに)



- ⑩ 次いで、足の部分を中割り折りで前に出す。
- ⑪ 中割り折りした足の部分を、さらに中割り折り⑨の折りに合わせ、足らしく折る。(三角に)
- ⑫ 最後に、耳を指で挟み整形し、口を中割り折り⑨で意図する口に折り、完成させる。



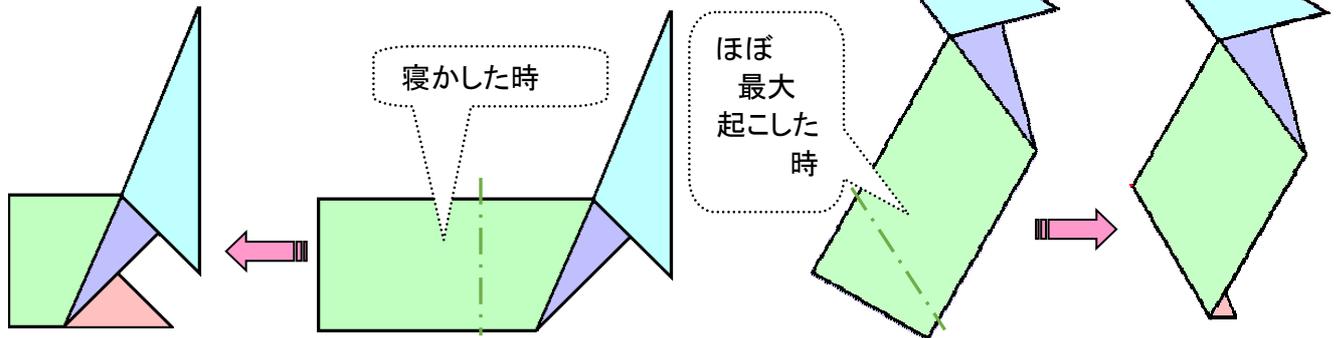
『中割り折り』とは……稜線の途中から山折り部分を谷折りに変え、谷の中に入れ込む折り方

<正統法> 折りたい箇所の両側面に山折りの筋目をあらかじめつけて置き、その場所で折りこむ。

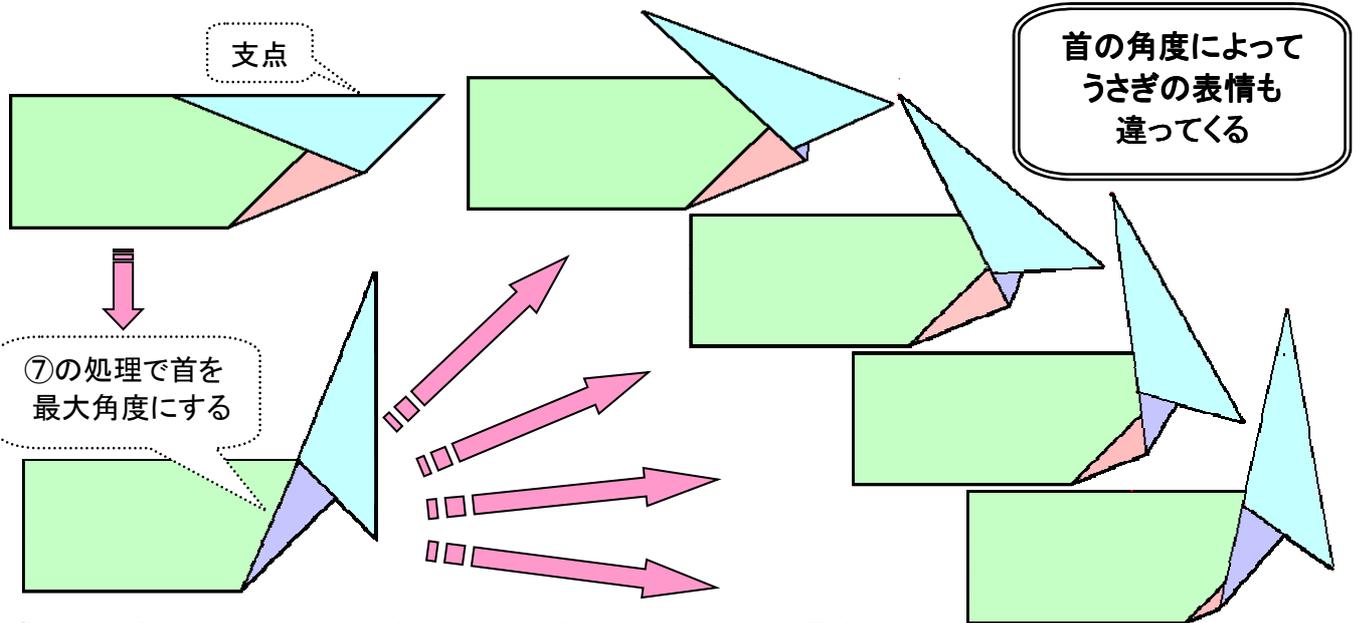
<簡便法> 稜線を谷折りに折り返し、下り込む位置(支点)を動かさないように指で強くはさみ、谷に引き込む。

いろいろな角度の中割り折り完成図

- ⑬ 《変化その1》 うさぎの体の角度を変えたいときは、胴体を希望の角度に置き、前足の底面が水平となるように胴体を折るが、バランスが取れていることが大事である。



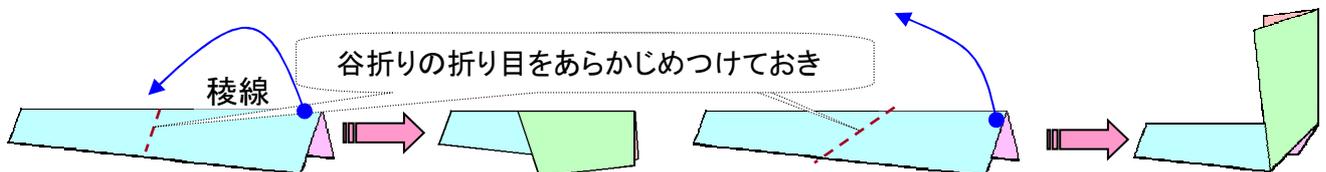
- ⑭ 《変化その2》 うさぎの首と胴体との角度を変えたいときは、⑦での耳の持ち上げの時に、かぶせ折りの簡便法を使い希望する角度に近づけるができる。



⑬と⑭の組み合わせで、様々な表情のうさぎが作れます(口と耳は最後に)

『かぶせ折り』とは……山折りの途中から山折り部分を谷折りに変え、谷の中に入れ込む折り方。

<正統法> 紙を一旦広げ、折り曲げる場所の両側面にあらかじめ谷折りの折り目をつけておき、紙を引き上げるときに稜線の折り目を谷折りに変え、折り目に従って丁寧に折って仕上げる。



<簡便法> 折り曲げる支点だけ重視し、角度は無視し、かぶせ折りで全部重ねる。次いで支点を中心に必要な角度になるまで引き上げ、最後に指でしっかりと折り目をつけ固定する。

